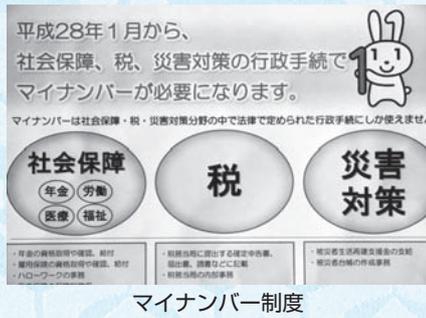


後期基本計画見直しの中で都市機能を円滑に進める街づくり



た。昔は所得のない人は税金を払う必要がなかったが、消費税が導入され考え方が変わり、国民全て公平に消費税を支払っているため、使い道をきっちりしてほしいという議論がこういいう話に繋がるのだと思う。消費税が10%になるともつとこういいう話が進む。税の公平な観点から世の中が変わっていく事を市民に説明すべきと思う。また現在、市では住基と市民カードを発行しているが、マイナンバー制度が施行となると、これらはどうのように整合させるのか。

答 平成28年1月を目指し現在検討中である。

問 一昔前は、「駅前と道路整備をし、循環バスを走らせる」、「区画整理を進め固定資産税収を上げる」、「6メータ以上の道路づくりをする」など聞いたが、まちづくり部として、後期基本計画を踏まえ、目指すまちの位置づけは。

答 人口減が予測される中、市街地のスケールを維持しながら、歩いて行けるといいうまちづくりをしたい。安心安全な快適な生活を営むまちづくりを市全体で取り組んでいる。

問 中和広域消防組合本部が県広域消防組合本部になるので、周辺道路を高取バイパス線と繋げないといけないのではと昨年催促したが、県は高取バイパスを高取町の兵庫で打ち止め、本市側から現道を広げ、博物館から京奈和へ繋げたいとのことであった。しかし、昨年の9月の一般質問で、何故、県が廃止する路線に向かつて、本市が繋げに行かなければいけないのかという答弁もあった。一方、債務負担行為127億円のホテルの案件時の財政計画には、高取バイパスについては、市債発行額が平成29〜32年までで約10億2,370万円と金額

が出ていた。29年から事業するなら用地の話も必要だが、土地開発公社は何も聞いておらず購入もしていないとのことである。どういいうことか。

答 県と協議した結果、高規格道路ではないが、縮小して道をつきたい。高取バイパスについては総事業費約30億円を考えている。

問 高田バイパスは県消防本部から近鉄線を越え南北のアクセスと云われるが、24年の中和消防冊子によると各支所との出勤回数が極端に変わっていないと思う。必要性は。

答 全体の区域を助け合っていくことになるので、若干数字は変わると思っている。

問 高取町の兵庫から越智までは山が1つあり、トンネルを抜く必要がある。そんなところまで繋げに行く必要があるのか。

答 県は、広域的幹線道路としての4車線の必要性については、平成21年に廃止を含め検討し現在手続中である。市としては、広域消防本部が得意、広域避難地である運動公園がある中、南北のアクセス道路は非常に大事だと思っている。消防本部から千塚公園

の事務所付近までを市の生活道路の幹線道路として事業化を検討し、県と調整中である。

問 当初の高規格道路であれば4車線と思うが、本市は公園用地として計画決定もしている部分もあり、高取町の兵庫からは2車線になると思う。計画決定の変更や手続きはどのようになっているのか。

答 県は4車線廃止の手続中で、同時に市も2車線の都市計画道路として計画決定をするための準備中である。

一般質問 高橋圭一 (いずれの森にも宿をい置)

生涯スポーツの推進

問 スポーツ基本法が施行され3年になろうとしている。「檜原の教育」の地区公民館の欄に、「地区公民館は、生涯学習の振興と地域連帯感の育成を図り、豊かなまちづくりに寄与するために設置された地域の生涯学習施設です。」と定義している。例えば先日のワールドカップで、サッカー選手たちが卓球に興じていたが、卓球は高齢者も含めて気軽にできるスポーツである。ニーズ調査も必要だが、地区公民館、体育館、中央公民館の軽スポーツの利用状況と実態は。

答 各地区公民館で実施のスポーツ活動は軽運動が主体で、ヨガ、ジャズ体操、社交ダンス、太極拳、気功、エアロビクス、空手、卓球等があり、卓球は香久山地区公民館で実施されている。今井と八木地区公民館にも卓球台はあるが現在利用されていない。

問 檜原市第3期地域福祉推進計画に、既存施設(資源の活用)とある。地域福祉推進委員を7年間させていたいただいたことがあるが、特に秋の地域の運動会は非常ににぎわっており、学校の運動会と違い、小さな子供連れの親御さんたちも一緒に参加できる地域の運動会であった。場所は営農スポーツ広場を借りるなど様々などところで実施されているが、営農スポーツ広場も含め、地区公民館を初め公共施設などで地域福祉の委員会の活動拠点の可能性についての現状と今後の考えは。